

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十一主日礼拝のしおり

2021年8月8日

前奏：

招きのことば：詩編 34 編:2-9 節

どのようなときも、わたしは主をたたえ わたしの口は絶えることなく賛美を歌う。
わたしの魂は主を賛美する。貧しい人よ、それを聞いて喜び祝え。
わたしと共に主をたたえよ。ひとつになって御名をあがめよう。
わたしは主に求め 主は答えてくださった。脅かすものから常に救い出してください。
主を仰ぎ見る人は光と輝き 辱めに顔を伏せることはない。
この貧しい人が呼び求める声を主は聞き 苦難から常に救ってください。
主の使いはその周りに陣を敷き 主を畏れる人を守り助けてください。
味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、あなたの御言葉をいただいて一週間を始めます。あなたはイエス様をつかわして、わたしたちのまことの命のパンとしてお与え下さり、私たちを養い導いてくださいます。今朝もあなたの赦しをいただき、新たにいのちをいただきます。そして、ここから永遠の命に生きる私たちの新しい一週が始まります。

どうぞ私たちのうちにあなたのみ言葉の約束を信頼する信仰をつくってください。そして日々の生活の現場にて、あなたの導きと支えを経験し隣人の力になっていけるように、私たちを鍛え用いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：エペソの信徒への手紙4章25節-5章2節

だから、偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。わたしたちは、互いに体の一部なのです。怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままではいけません。悪魔にすきを与えてはなりません。盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。キリストがわたしたちを愛して、御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい。

福音書朗読：ヨハネによる福音書6章35, 41-51節

イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない…ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことをつぶやき始め、こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか。」イエスは答えて言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。預言者の書に、『彼らは皆、神によつ

て教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもとに来る。父を見た者は一人もいない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。わたしは命のパンである。あなたたちの先祖は荒野でマンナを食べたが、死んでしまった。しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きるためのわたしの肉のことである。」

讚美歌 534 番

1・ほむべきかな 主のみめぐみ 今日(きょう)まで旅路を 守りたまえり

※よろずの民よ たたえまつれ「あがないぬしに み栄えあれ」と

2・ほむべきかな 御名によりて 受くれば ものみな 良からざるなし ※

3・ほむべきかな 主の御名こそ いまわの時にも 慰めとなれ ※ **アーメン**

説教：「わたしは天から降(くだ)ってきたパンである」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は大胆にも、父を見た者はひとりもいない、と言いました。父なる神様、すなわち、神さまを見た者はひとりもいない、と言われたのです。神様は目に見えません。しかし、私たちは今日神様を信じてここに集まっています。今朝はその信仰はどのように私たちに与えられるか、また、信仰がどのように私たちを日々生かすのかをイエス様が教えてくださいます。

1. 天から降(くだ)ってきたイエス様が神を示す

イエス様は、父なる神様を見た者はひとりもいない、神のもとから来たものだけが父を見たと言われました。同じヨハネの福音書 1 章 18 節には似ているみ言葉があります。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」とあります。

前半はわかります。なるほど天地万物をおつくりになり、今もそのすべてを保ち、続べ治めておられる唯一まことの神さまを、神様に造られた私たちが肉眼で見えることはできません。見えるものも見えないものも、それらを見る目も、神様が何も無いところからおつくりになりました。後半はいかがでしょうか。神様は神様が選ばれた方法でご自身を私たちにを見せてくださっています。それは私たちが予想し期待する神様の姿ではないかもしれません。しかし聖書は、神様はイエス・キリストによってご自分を私たちに示してくださったと教えています。

イエス・キリストはご自分が天から降ってきたいのちのパンですと言われました。これに対し 41 節を見ると、ユダヤ人たちは承服できなかったようです。ナザレの町の大工のヨセフを

知っており、母マリヤも知っていたからです。この人はあの村で二人の間で育ったイエスではないのか。なぜ天から降ってきたというのか。

私たちも思いませんか。世界の歴史には、普通の人を超えた偉大な人は多くいる。しかしみんな神ではない。イエス・キリストだけが天地を造られた神さまから遣わされたまことの神さまであるのは理解できない、と思ったことはありませんか。イエス様が神さまなんて理解できない、信じれない、ということがとても普通の反応だと思います。

古今東西、すべての人は宗教的存在です。自分を超えた何か超自然的な存在を意識します。しかし本当の神さまを知りません。ひとつは神様が目に見えるものをすべておつくりになったかただから、神様ご自身は目に見えないし、目に見えるものは神様ではない、ということです。

けれども問題はもっと深いものです。聖書にはもともと人間は神様に愛され、また神様をおそれ愛し信頼して共に歩むように造られたのに、人の方から神様を離れて自分の関心と感覚と喜びを中心に歩むようになったため、胸をはって神様に向き合っていたことができなくなり、できれば神さまから離れて、都合の悪い時は干渉されなくて生きていきたいと願う性質を身に着けたというのです。神様がおられると自分は幸せになれないので神様のいない世界を生きていきたいという性質があります。ですから私たちは困ったときや自分の知識や体験をはるかに超えたことに出会ったとき、あてずっぽうで神さまを求めはしますが、とんなに科学的に追求し、哲学的に考察し、神秘的な体験をしても、まことの神さまを見ることなど期待できません。運を天に任せるといって神さまにお委ねしていると考えたり、自分勝手な儀式でひとりよがり神様に喜ばれていると勘違いをして神さまに近づこうとしたりします。また、社会で許しがたい不正を見たり、人々から見捨てられている本当に悲惨な人々の姿を見ると、神様に何とか悪い人を罰してほしい、と思ったりします。これらはすべて根拠のない人間側からの願望に過ぎません。そんな神様がいてくださる道理も保証もありません。

反対のことも言えます。聖書は神様が私たち一人一人を大切に愛してくださっている、と教えます。しかしその愛を信じていることができません。劣等感にさいなまれ、自分など愛される価値がないと思います。神様が私を愛していると言われても、そんなことをうかつに信用するとうまく利用されるのではないかと警戒します。神様に心を開いて安心するということができません。何かの間違いで神さまが私を愛していてくださるとしても、その状態を保つように、神様の気に障らないように、いつまでも気に入られているように神経をすり減らす場合もあるでしょう。

皆さん、私たちは偶然に生まれてきたものではありません。神様と共に心豊かに安心して生きるように神様に造られ、内側から出てくる喜びをもって与えられた使命を果たす生きがいをもって、仲間と共にぐんぐん成長しながら命を生きるどころでした。しかし、私たちは自分でもどうにもできない罪の力に捕らえられて、神様を見ることができないでいます。

2. 父が引き寄せる、キリストが最後に復活させる

神さまはそのような私たちをよくご存じです。そして自分で変わることのできない罪びとの私のために、神さまはその独り子イエス・キリストを人として世に送り、罪のない方ですのに私たちの罪のために代わりに罰してくださいました。あなたの罪を罰する代わりに、イエス様を罰することであなたの罪の罰を終わらせてくださいました。イエス様はそのために来てくださったのです。私たちが捜すのではなく、神様が赦す対象である私たちを捜し、イエス様によって私たちを身元に引き寄せてくださいます。私たち人間はその自分中心でわがままな罪のために神様を見ることができないので、父なる神様は私たちのために、その独り子、御子なるイエス様を人類の歴史の真ただ中に遣わしてくださいました。イエス様は天から降って、十字架にかかって死なれるという使命を果たしてくださいました。十字架において罪びとの私たちを赦す、不可能を可能にした神様に会います。神様は神様に喜ばれないままの私を、イエス様によって正しく赦してくださいます。イエス様が真実で憐み深い神様を見せてくださいます。

旧約聖書の中で預言者モーセは奴隷の地エジプトからイスラエルの人々を解放して自由にしました。その後長期間荒れ野をさまよう民に神様は食べ物を与えてくださいました。天からマンナというパンのようなものを下してくださったのです。畑を耕すこともできず、動物も魚もない荒れ野で、神様が与えて下さったマンナで民は生き延びるという体験をしました。けれども彼らも後で寿命が来たら死にました。次の世代に信仰が受け継がれていきました。イエス様は、ご自分が天から降ってきたパンである、とおっしゃいました。いのちを与えるためにご自分を食べなさいと言われます。洗礼によって私たちはイエス様とひとつにされます。罪が赦され、そしてイエス様のよみがえりの命にあずかって新しい命を生きるのです。聖餐の食卓で、私たちは死んでよみがえられ、今もとこしえまでの生きておられるイエス様のからだに血にあずかります。私たちは朽ちてなくなるパンではなく、イエス様といういのちのパンをいただくのです。

イエス様を信じる私たちも、やがて寿命が来ると死にます。しかし私たちにとって死は敗北ではありません。むしろ罪との戦いを終えて、新しい命のみに生き始める、完成された歩みの始まる門出です。イエス様は51節で、わたしは天から降ってきた生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる、と言われました。また40節で、わたしの父の御心は、御子を見て信じる者が皆、永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることである、と言われました。洗礼によって私のうちに始められたイエス様の命は、私たちを永遠の命に導きます。イエス様を信じて罪赦された者は、同時にこの新しい命に生かされて、永遠に神様と共に生きるいつも新鮮ではれがましい命に満たされるのです。

3. 神の与える永遠のいのちにいきる

私たちは神様を見ることができません。しかし、神の独り子であるイエス様が私たちに父なる神様を見せてくださいました。そして神様は私たちをイエス様によってご自身のもとに引き寄せて下さり、罪の赦しと新しい命を与えてくださいます。

45節に、神によって教えられる、父から聞いて学んだものは皆、わたしのもとに来るとイエス様はおっしゃいました。旧約聖書のイザヤ書54章には神様があなたを引き寄せられるのでたとえ山が移り丘が揺らぐとも神様の慈しみはあなたからはなれることはない、と言われていきます。そしてあなたの子どもたちもこの神様について教えを受けて豊かな平安を受ける、とあります。エレミヤ書31章には神様がイエス様にある新しい約束を与えてくださるときには、あなたがたはもうお互いに「主を知れ」と教え合わなくともよくなる、と記されています。

イエス様の十字架と復活に合わせられる洗礼によって、あなたは神様と共に歩む喜びの命に生き始めます。荒野でマンナによって養われた民のように、イエス様といういのちのパンをいただくので、この世の荒野を歩み切る命が与えられます。それは不思議な命です。私たちはイエス様にあって永遠の視点から今の生活を見渡して生きていくということなのです。今の私は様々な苦しみの中にいます。今の私は体もだんだん元気を失っていきます。この肉体は一度くちていきます。そして新しい体によみがえらせられて、永遠に生きるのです。そこから今の暮らしを見直すのです。今の私は罪にけがれている、世にある限り、罪深い思いと闘いながら、生きていきます。どうせ死ぬのだから、それまで自由にわがままに自分の夢を実現するために生きていきたい、といえますか。自分なんてどうせ大した人生を送れないのだから、諦めて身の丈にあった幸せを求めて歩みますか。どんなに順調でも、どんなにがんばっても、人生は運によって変わるので、神様につかずはなれず頼みをしながら生きていきますか。

イエス様にある私たちの命はこの世の死で終わりません。神様は永遠にあなたを喜び、あなたを大切に、あなたが神様と人々に仕え、また役に立って、実を結ぶ人生を送るようにと、心通わせる喜びと共に成し遂げる満足を与えてくださいます。あっという間に過ぎ去っていくこの世の日々の歩みは大切な一日一日です。罪深い古い自分を生きるのではなく、イエス様にある新しい命を生きましょう。神様との交わりを喜び、人々のために尽くしていきましょう。世にあって神様に与えられているかけがえのない使命を、心から果たしていきましょう。主イエス様を人々に伝えて生涯伝道を喜びとして生きていきましょう、罪びとの私を顧みて、毎日その一切の罪を赦して下さり、新しい命を与えて下さるすばらしい神様をただただ喜び賛美して生きていきましょう。信じる者は永遠のいのちを得ているのですから。

「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」ヨハネ6:51

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌：354番 献金 献金感謝の祈り

1. 牧主(かいぬし)わが主よ 迷うわれらを 若草の野辺に 導きたまえ
われらを守りて 養いたまえ 我らは主のもの 主に贖(あがな)わる

2. よき友となりて 常に導き 迷わば尋ねて ひき返りませ
われらの祈りを 受け入れたまえ 我らは主のもの ただ主に頼る
3. 赦しのみちかい 救いのめぐみ きよむる力は 皆 主にぞある
我らをあがない 生命(いのち)をたまう 我らは主のもの 主に在りて生く
4. 御慈愛(みいつくしみ)をば 我らに満たし 今よりみむねを なさしめ給え
我らをあわれむ み恵みふかし 我らは主のもの 主をのみ愛す アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神(みかみ)に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏